

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 3 月 22 日

事業所名 障がい児通所支援施設 ちゅらハウス2号館

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	1	3			利用者のその日の人数にもよるが多いときは 立ち位置に工夫している
	2	職員の配置数は適切である	1	3			ヘルプを求めることがある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	3		1		避難経路に高さがあるため、車椅子等のこ とも視野にいれ改善をしていく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	3	1			有給などで参加できない職員に関しては、 後日、再度全員で振り返りを行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	3	1			アンケートに記載されている、保護者からの 声に対し真摯に受け止め一つ一つ改善をし ていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	4				事業所のホームページをとおして公表してい る
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	3	1			事業所のホームページをとおして公表してい る
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	4				施設内外の研修を実施している
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	4				利用児の声、また状態を確認したうえでアセ スメントを行い、サビ管が保護者と面談のう え計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	3	1			使用している
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	3	1			利用児の状態の確認も行いながら、支援員 全員で行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	4				プログラムのアイデアを支援員からつり活 動を行っている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	4				グループ分けを行い、それぞれにあった目 標設定を行っている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	4				サビ管が行っている
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	4				学校迎え前に、ミーティングをしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	1	2	1		支援終了後、支援員全員がいる時は共有す るが、全員揃っていない時は翌日報告をして いる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	4				サービス提供終了後記入している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイ サービス計画の見直しの必要性を判断して いる	4				モニタリング前に支援員全員で話し合い見直 しを行っている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	3	1			基本活動を中心に、状態にあった活動内容 を組み合わせている

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4				サビ管が行っている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1			学校迎え時、または自宅送迎時に、情報交換を行い、共有を図っている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	1	1		医療児ケアの受け入れをしていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	2	1		連絡をとり連携を図り相互理解に努めている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4				相談支援員、保護者、就労先、事業所間で会議をもち、情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		2		コロナ禍の為、なかなか交流する機会がない。今後は、状況を見極め交流していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1			2か月に1回サビ管が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				電話やメール、また、連絡量、送迎時などを活用し保護者と情報交換を行い、互いに理解をしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3		1		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1			説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1			相談があった場合は、アドバイスをを行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	1	1		コロナ禍で現在活動はしていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4				苦情があった時は、全支援員で話し合い、保護者へ伝えるなど、時間をあけず対応をしている
	34	定期的に広報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4				毎月1回、おたよりを発行している
	35	個人情報に十分注意している	4				個人情報に繋がる物に関しては、持ち出し禁止はもちろんの事、書類等は直ぐ管理者の目の前でシュレッターにかけるようにしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3		1		個々にあった意思疎通を行っている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	1		近隣との関わりを多くもっている。コロナ禍にあり、地域との関わりは少ない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			マニュアルを策定し、支援員、保護者へ周知しているが、まだまだ出来ていない部分もあると感じ、周知する工夫が必要である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			月に1回、訓練を行っている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			虐待研修含め、事業所内でも、支援員間で声掛けを行っている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			計画書に記載し、障害特性を含め、保護者と話をしながら、保護者に了解を得ている
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			食物アレルギーがある利用児は医師の診断書の提出をいただいている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			ミーティングを活用し、情報共有を行っている

* 全スタッフと評価を行い集計した結果となります。